

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

大論述が1問(600字), その他の論述が3問(60字・30字・70字), 単語記述問題が23問, 記号問題が2問。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

大問〔1〕は, 字数上の変化はなし。〔2〕小論述は130字(100字・30字)から160字(60字・30字・70字)に変更。

その他トピックス

第1問の大論述は大きな変化なし, 第2問の小論述は字数が増加した。記号問題が減少した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔1〕	論述 (600字) (30点)	イギリス商業の展開と17~18世紀の国際情勢	主題理解が十分にできないと指定語句の羅列に陥る可能性がある。リード文のなかで触れられている事柄をヒントに解答を作成したい。	難
〔2〕	論述 (60字・30字・70字) 単答形式(10) (40点)	社会主義思想	2つの資料(エンゲルスの『空想より科学へ』とコミンテルンのテーゼ)を使っての問題。単答問題は, 近世から近代にかけての社会主義思想に関する問題。小論述3題は, 第2インターナショナルの崩壊, 一国社会主義論, コミンフォルムのユーゴ除名を述べさせるもの。 また, 歴史総合分野の出題として, 問5では『蟹工船』の作者「小林多喜二」が解答として求められた。	やや難
〔3〕	記述 単答形式(13問) 記号(2問) (30点)	政治権力と社会・経済に関する問題	古代から現代にかけての単答問題・記号問題。 記号問題は, 語群より該当のものを複数選ばせるもの。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

単答形式の問題は古代から現代まで出題されているので, 教科書などを使って, 全範囲の学習が必要である。また, 小論述は語句の説明が1問, 理由の説明が2問となり, 歴史事象の因果関係が教科書レベルできちんと説明できるようになっておきたい。大論述では, 近世から近代にかけてのイギリスの商業とその時代の国際情勢が求められた。貿易・商業とその担い手(国家・勢力)および国際政治との関係についても理解しておく必要があるだろう。